

# 「第11回スポーツ環境会議」議事録

平成30年10月30日(火) 14:00～16:10

新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

## 1 出席者

1	金子 和子 (区スポーツ推進委員協議会)	11	佐藤 陽一 (新宿未来創造財団等担当課長)
2	小菅 知三 (区レクリエーション協会)	12	小林 係長 (障害者福祉課長 代理)
3	太田原 武 (区高齢者クラブ連合会)	13	高橋 昌弘 (地域包括ケア推進課長)
4	大塚 フジエ (区青少年育成委員会)	14	谷川 省一 (子ども家庭課長)
5	山本 芳裕 (区小学校PTA連合会)	15	中川 誠一 (健康政策課長)
6	鈴木 和成 (区中学校PTA協議会)	16	天井 係長 (みどり公園課長 代理)
7	宮嶋 武綱 (スポーツ関連事業者)	17	高橋 係長 (教育調整課長 代理)
8	関口 美緒 (公募委員)	18	浅野 祐介 (東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長)
9	藤原 千里 (公募委員)		
10	中山 順子 (生涯学習スポーツ課長)		

欠席者 5名

- 間野 義之 (学識経験者)
- 今泉 清隆 (区体育協会)
- 山田 和男 (区町会連合会)
- 徳堂 泰作 (区障害者団体連絡協議会)
- 小柳 俊彦 (新宿未来創造財団事務局長)

机上配付資料

- 資料1 スポーツ環境会議設置要綱
- 資料2 スポーツ環境会議委員名簿
- 資料3 関口委員からの情報提供「大学講師の運動事情報告」
- 資料4 手づくりマーケット in 新宿
- 資料5 しんじゅく健康プロジェクト ～みんなで目指す！健康100歳～  
楽しく歌って、動かして、食べる幸せいつまでも
- 資料6 東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の主な取組み (平成30年度)

## 2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

### 3 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

生涯学習スポーツ課は、スポーツ環境整備方針を推進するため、区民のスポーツ機会の拡大のみならず、健康長寿、スポーツコミュニティの醸成などに視野を広げ、生涯スポーツの振興に取り組んでいるところである。

この会議も今回で11回目を迎えるが、前回の会議においても各分野の連携がキーワードとなった。

また、開催まで2年を切った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツの価値、効果、レガシーについて区民の関心も非常に高まっているため、本日は東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長にも出席いただいている。大会以降のスポーツ振興やコミュニティも視野に入れながら、各分野の皆様がどのような連携が可能かを共有できる会議体にしていただきたい。

#### (3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

#### (4) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

##### ア 各団体・委員からの報告

###### ・関口委員

現在、大学の非常勤講師という立場で講義をしている。今回は日本人の非常勤講師を対象に聞き取り調査を行った。

非常勤講師は限られた時間の中で様々な仕事をやらなければならない、仕事を持ち帰ることもかなり多い。このような状況で、どのようにして健康を保っていくか調査をした。

結果として、大学非常勤講師は膨大な知識を持っているため、論じることはするが、実際にはスポーツの習慣がなかった。以前の外国人を対象とした調査と同様の結果であった。

バイアスがかかった言い方になるが、大学教員は過去に運動をあまりしてこなかった人が多い。このような人たちがどういった取り組みをしているかについては、〈資料3〉をご参照いただきたい。

この問題点と解決法であるが、根気よく運動を推進していくことで、将来の医療費削減にも繋がっていけば理想的である。

###### ・新宿区レクリエーション協会

当会では、「ゆるスポーツ」という、軽スポーツを含むあまり激しくないスポーツを推奨してきた。障害者のものという印象が強いパラスポーツであるが、パラリンピックの気運が高まってきた昨今、パラスポーツという言葉が普及しつつある。障害の有無に関係なく、年齢・性別・地域を超えて誰もが楽しむスポーツという定義が定着しつつある。ボッチャがその代表的な例であるが、ふうせんバレーやラダーゲッター等の軽スポーツを体験した人たちが、「楽しむ」という経験をすることがとても大きい引き金になっていると感じる。

平成29年3月にスポーツ基本法に基づく第2期スポーツ基本計画が制定されたが、その中で具体的な数値目標が提示されている。障害者スポーツの振興として、障害者の週1回のスポ

ーツ実施率を、成人は現状の 19.2%から 40%にするという。倍にするということになるので、それぞれの団体がどういう方法でどう盛り上げていくか、このスポーツ環境会議がとても重要だと考えている。また、障害者スポーツ指導員の資格を保有している人材が多いスポーツ推進委員のような方々の活躍の場の確保が盛り込まれていることは、画期的な動きであると思っている。

- ・区高齢者クラブ連合会

当会で定期的実施している人気のあるスポーツは、グラウンドゴルフと輪投げである。その他に、連合会全体としては、囲碁・将棋を年 2 回実施している。女性に人気があるのは、フォークダンス講習会や手芸教室である。来年の春からは、ボッチャも定期的に行っていきたいと思っている。

囲碁・将棋は、頭の体操になるので、当会の目的である「健康で長生き」にも向いている。

- ・区青少年育成委員会

10 月 7 日に第 17 回 落一町連大運動会を行った。8 町会対抗で行い、町会に入っていない方もこれをきっかけに町会員になっていただけるような一大イベントである。

私が居住する地域のコミュニティスポーツ地区大会は、今年で第 40 回を迎える。落一地区では実行委員会方式を取り、今年度は育成委員会、町会、高齢者クラブ、小中学校 PTA、青少年活動推進委員、スポーツ推進委員、スクールコーディネーター等 65 名の実行委員に、新宿未来創造財団等を加えた計 88 名の体制で行う。

12 月 9 日に行う中央大会では、実行委員としてスポーツ推進委員、青少年活動推進委員で運営をする体制をとり、また、各地区から代表選手を出してもらう。

地域が一丸となることがとても重要である。

- ・小学校 PTA 連合会

今年度は、7 月に味の素スタジアムで親子でサッカー観戦を、8 月 15 日には東京ヤクルトスワローズのご協力をいただき親子で野球観戦を実施した。そして 10 月は今年で 4 回目になるソフトボール体験教室を実施した。これは、小学校 1~3 年生は「親子で参加するファミリー教室」、4 年生以上は「ジュニア教室」を、明治神宮の軟式グラウンドをお借りして、ソフトボール連盟の皆さんの指導で行った。最後はゲーム形式で大会を行い、連合チームを含め全 13 校から 8 チームが出場した。

11 月は PTA のバレーボール大会、1 月にはコズミックセンターにて卓球大会が予定されている。子どもたちが中心となるイベントとしては、1 月下旬の新宿シティハーフマラソンでは沿道からの応援を、5 月はわんぱく相撲をやる予定である。

それ以外にも多くの小学校からリクエストをいただいております、オリンピックに参加したアスリートやサッカー等の日本代表だったメンバーをお呼びして、11 月から 2 月まで各小学校において、夢や希望を与え、あきらめない気持ちを伝えていくような授業を行う予定である。

- ・中学校 PTA 協議会

各中学校の PTA はそれぞれイベント等を行っているようだが、中学校全 10 校が集まって何

かをするといった取り組みは現在していない。

- ・スポーツ関連事業者代表

指定管理者となり3年目となる。9月17日に「新宿スポセン祭り」を実施したが、より多くの方にスポーツを体験していただきたいと思い、今回は著名人、オリンピック等もお呼びした。フットサルのパフォーマーをお呼びし、見て、楽しんでいただいた後、簡単なリフティング等を教えてもらえるワークショップを設けたり、大体育室ではスラックラインやトランポリンのような親子で楽しめるような体験ブースを設けた。また、障害者福祉センター主催の「ゆる〜くボッチャ大会」に会場を提供し、こちらも盛況に終わった。参加者は、昨年よりも910名増えた。来年度以降も楽しんでいただけるように、地域の団体等と協力をしながら盛り上げていきたいと思う。

- ・藤原委員

私たちが今力を入れている活動としては、特別支援学校の高等部を卒業した生徒に対して、スポーツができる環境を安定的に確保することである。12年間、学校で体育の授業を受けてきて、その後引き続いて地域でスポーツを続けていくという環境が、現在無いに等しい。パラスポーツへの理解はかなり浸透してきているが、残念ながらイベント性の高いものが多く、単発になりがちである。地域の幅広い年齢層に対応するためには、レクリエーション性や競技性といった要素が必要になる。

そこで、私たちは、永福学園の卒業生を対象にスポーツクラブを立ち上げた。そこでは陸上、ボッチャ、ハンドサッカーという3つの競技を行い、都内の肢体不自由児の特別支援学校の卒業生を対象にしたスポーツ競技大会に参加できるよう、少しずつ活動を広げている。スポーツクラブの練習時間については、永福学園の体育館の予約がなかなか取れないため、都立光明学園に協力をいただき、永福学園から光明学園に練習に行く機会もたくさん設けていただけようになった。こういった理解がだんだんと深まっていき、現役から卒業生までスポーツで関係が築けるような、2020東京大会が終わった後もきちんとスポーツができる環境が整備されていたらと思う、活動を続けていく。

また、今年、新宿養護学校に念願のスポーツ部が立ち上がった。中・高校生が出場できる都の大会へ向けて、新宿養護学校と永福学園が合同チームを作ったので、新宿養護学校のスポーツ部と卒業生が一緒になって練習する環境を作ることができた。私たちにとって長年の夢が達成でき、とても嬉しく思っている。

- ・スポーツ推進委員協議会

継続的に取り組んでいる体力測定は、スポレク等のスポーツイベントのみならず各地域センターでのお祭りにも要望があれば行っている。この体力測定の結果は他人と比較するものではないので、過去3年分の記録が記入できる用紙を用意し、過去の自分と比較していただいて、今の状態を保っていかうという指導をしている。

コミスポは、地区大会及び中央大会で各種目の審判をやっており、その他スポレクでは体力測定、ボッチャ、ゴールボール、ユニカールを実施した。

障害者福祉センターが企画した「ゆる〜くボッチャ大会」では、スポーツ推進委員は審判と

して関わった。障害者福祉センター利用者や民生委員の方々等が友達になれるような楽しい雰囲気で行うことができた。来年も是非実施したい。

また、各地区においては、中学校を定期的にお借りし、中学校区で地域スポーツ文化協議会を、小学校では校庭開放を利用し、活動している。例えば、落合第一地区だと落合中学校を借りて月2回、土曜日の午前中にスポーツ交流会を行っている。地域のボランティアを中心に様々なスポーツを通して、小さなお子様からファミリーまで参加してもらい、交流を深めている。

## イ 各課での取り組みについて

### ・生涯学習スポーツ課

子どものスポーツ離れが進んでいることもあり、当課では、障害者スポーツの普及とともに子どものスポーツ機会拡大にも力を入れている。スポーツ推進委員の皆様が幼稚園・子ども園でボッチャを普及していただいているが、とてもありがたいことと思っている。

また、障害者スポーツについても、ボッチャを指導できる人材を増やすことを目的に、ボッチャ指導員養成講座を実施している。スポーツ推進委員の方には、お忙しい中、休日や夜に積極的に参加していただいております、地域からボッチャをやってみたいというお声をいただいたときに各地へ出向いて指導していただき、大活躍している。

「ゆる〜くボッチャ大会」については、重度の障害をお持ちの方や聴覚障害をお持ちの方にもご参加いただき、ゲームを楽しんでいただけた。イベントに参加することをスポーツ機会の入り口として位置付け、今後、様々な情報を共有しながら継続的に定着できる事業を組み立てていきたい。

また、パラスポーツはパラリンピックのためだけにあるのではない。今後どのように定着を図っていくか、この会議の場のみならず今後ご提案やご意見を頂戴できればありがたい。

### ・新宿未来創造財団

まずは区内最大のスポーツの祭典「区民総合体育大会」が現在開催中である。既に1万8千名以上の方にご参加いただいております、現時点で昨年度と同程度である。

10月8日の体育の日には「スポレク2018」を開催した。多くの方にご協力をいただき、7,678人の来場があり、企画の方も含めると10,602人に参加いただいた。

「コミュニティスポーツ大会」は、10月までに6地区の地区大会が終了し、現在残り4地区となっている。中央大会については、12月9日にコズミックセンターにて開催する。今年度は、ボッチャをオープン競技とし、ボッチャ体験コーナーも設ける。近くにお立ち寄りの際には、ぜひご参加いただきたい。

「新宿シティハーフマラソン」については、来年1月27日、第17回大会を開催する。ハーフマラソンの部は定員5,000人のところ、電話受付わずか20分で定員となった。10kmの部についても定員2,500人のところ昨年より2週間ほど早いペース定員になり、「走る」や「スポーツ」ということについて皆様の関心が高いことが窺える。

また、放課後子どもひろばについては、ボッチャやふうせんバレー、スポーツチャンバラといった種目を行ったり、サッカー協会、水泳連盟のご協力をいただいてそれぞれの教室を開いている。

12月よりスポーツセンターが休館となるが、双方で情報共有しながら、できる限り協力していきたい。

- ・障害者福祉課

＜資料4＞の「手づくりマーケット in 新宿」について説明をさせていただく。これは新宿駅西口広場イベントコーナーで、区内の各障害者福祉施設の共同バザールといった形で実施するものであり、各作業所等で作っているパンや手芸作品等を販売し、実益が障害者の方々の工賃となる。そのほか、障害者の方々の作品展、知的障害者の疑似体験等のイベントを予定し、特設ステージにおいては、クリスマスが近いのでバンド等の演奏、歌舞伎町の元ホストである寺田ユースケさんをお呼びして、差別解消に向けた取り組みをする。また、「やってみよう！パラリンピックスポーツ体験コーナー」として、12月4日はブラインドサッカー、12月5日はボッチャ体験コーナーを設けるので、一般の方にも身近なスポーツとして感じていただきたい。

- ・地域包括ケア推進課

当課は、介護予防という切り口で、高齢者を中心に様々な体操等の教室を実施している。その中でも「いきいき体操」の普及啓発と、高齢者クラブをはじめと様々な区民団体への支援が主なものある。

「いきいき体操」については、現在21の「いきいき体操ができる会」があり、区内の様々な場所で定期的に活動されている。また、いきいき体操サポーターの養成も行っており、6月と10月の2回行った。講習を修了された方は新たに25名増え、現在300名以上の方に様々な場面でご協力をいただいている。

また、来年1月23日に「いきいき体操」の普及10周年記念式典を開催予定である。日頃ご協力いただいている方々に感謝申し上げるとともに、さらなる普及啓発の場としていきたいと考えている。定期的に活動している方には式典の周知を開始し、11月25日号広報しんじゅくでは一般参加について掲載する予定である。

区内15ヶ所の地域交流館、4ヶ所のシニア活動館では、指定管理者が積極的にボッチャ用品を用意し、ボッチャへの取り組みを始めている。館によっては、大広間にボッチャ用のコートのラインが予め引いてあり、いつでもボッチャができるような体制になっている。障害のある方ない方に関わらず楽しめるスポーツであるので、関係者・部署とともに協力して参りたい。

「しんじゅく100歳トレーニング」の開発にも、いきいき体操のサポーターと協力して取り組んだ。今後の普及啓発についても、関係者・部署とともに協力して参りたい。

- ・子ども家庭課

当課ではスポーツ事業を主催していないが、地区の青少年育成委員会の活動のサポートのほか、新宿シティハーフマラソン等、年間を通してスポーツ事業に対してサポートをさせていただいている。

- ・健康政策課

介護予防のために極めて重要であると考えているのが、3つの力の維持・向上である。

「いきいき体操」のような体力の維持・向上と、筋力の維持・向上、それに食べ物を飲み込む力の維持・向上である。この維持・向上を図るため、筋力向上策、摂食嚥下力の向上策を現在開発中である。＜資料5＞をご覧いただきたい。

筋力向上策として、現在「新宿区オリジナル（仮称）しんじゅく100歳トレーニング」の開発中である。「いきいき体操」ではバランス感覚、関節機能、体力一般の向上ということになるが、このトレーニングでは、錘バンドによって脚に負荷をかけ、膝伸ばし等をゆっくり行うことで筋力の維持・向上を狙ったものである。開発にあたっては、東京都の健康長寿医療センター研究所と有識者、区内関係機関と連携している。年度内にはトレーニングを完成させ、お披露目したい。また、DVDを作成し、来年4月からは参加予定グループや地域へ展開していきようにしていきたい。このトレーニングの動機付け支援として地域で説明会を開くほか、地域団体や住民に普及啓発をする。また、導入支援として、やり方の指導についてDVDを使い、音声と映像を用いて地域のリハビリの専門家や区の専門職などによって披露したり、効果測定の方法などを指導していきたい。継続支援として、見守りのほか、定期的な体力測定、やる気が萎えないような工夫、参加者同士の交流会の開催、情報の発信等をしていきたいと思っている。現在3カ所、83名の方にご協力いただき、モデルグループとして効果検証を行っている。この結果をもとにブラッシュアップし、最終形をお披露目したい。

次に、食べ物を飲み込む力の維持・向上策として、区がNPOと協働して「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」を展開している。ごっくんリーダーとは、「ごっくん体操」を普及していただく人材のことで、講演会を受講した方ならどなたでもなることができ、現在97名程いる。ごっくんリーダーの方々には、普及活動の支援のためDVD（作成中）を進呈し、地域で嚥下機能の向上の普及に努めていただく。

「いきいき体操」で体力をつけ、「100歳トレーニング」で筋力をつけ、「ごっくん体操」で嚥下力をつける。この3つをなるべくセットで展開していき、健康寿命が長い区民を一人でも多く増やしたいという思いである。

#### ・みどり公園課

当課からは、昨年から今年にかけて、公園に関して策定した計画について紹介する。

一つが、新宿中央公園の整備である。公園面積が88,000平方メートルという区立公園では最大規模の面積を持つ公園であり、今年でちょうど50周年を迎えた。区では、昨年9月に「新宿中央公園魅力向上推進プラン」を策定した。現在この計画に基づいて設計等を行っており、来年度より順次園内の整備等を行っていく予定である。ちなみに来年度は、老朽化・劣化している芝生広場等を再整備したいと考えている。また、この計画に基づき、民間の活力を活用する目的で、公園のトイレにネーミングライツを募集した結果、2カ所のトイレで事業が始まった。ネーミングライツを取得した事業者には、季節感ある内装を適宜していただいております、とてもきれいなトイレとなっている。

もう一つの計画が、園内にある様々な遊具や施設を計画的に改修するため、今年の9月に策定した「公園施設長寿命化計画」である。この計画に基づき、来年度から、遊具をはじめとした公園施設について、計画的に改修を行っていく。こうした取り組みを通して、子どもたちの遊び場や健康づくりの場として、皆様に楽しく安心して利用していただける公園になるように努めていく。

## ・教育調整課

まず、東京都共通の事業ではあるが、区内の小中学校にオリンピックを招致し、スポーツに親しむための取り組みを行っている。また、区独自の取り組みとしては、日常的に運動の楽しさに触れ、自ら運動に親しむことができるように「スポーツギネス新宿」を小中学校で実施している。小学校では児童が運動の楽しさを感じることができるよう縄跳びの二重跳びや三重跳びの記録やバレーボールの円陣パスが続いた回数の記録を取って競う等している。中学校では、運動に接する機会が二極化の傾向があるため、多くの生徒がスポーツに親しむ機会を持てるように、長縄を二本使ったダブルダッチというスポーツを引き続き推進している。

また、昨年度より、障害者理解教育の一環として、ブラインドサッカー、車椅子バスケットボール、ゴールボール、シッティングバレーボール、ボッチャの5種目の中から1種目選択し、障害者スポーツを体験する授業を全ての小中学校、新宿養護学校で実施している。

部活動については、今年度策定した部活動ガイドラインに沿った部活動運営の推進を各校に周知し、部活動の安定的な運営と教員の勤務環境の改善、働き方改革の面からも、今後、部活動の支援のための環境整備を引き続き強化して取り組んで参りたい。

## ・東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課

まずは<資料6>をご覧ください。

新宿区では、オリ・パラ気運醸成の取り組みとして、29年度は1,000日前イベントと前回大会の記録映画の上映会を実施した。30年度は、6月に777日前記念イベントとして、愛日小学校と牛込笹笹区民ホールを会場とし、資料のとおりスポーツ体験やアスリートのエスコートキッズ体験、取材体験を実施した。また、新宿養護学校の生徒によるバスボム作り、オリンピック・パラリンピアンによる講演会や小・中学生によるコンサート等、様々なコンテンツを展開した。

今年の8月から9月にかけて伊勢丹新宿店で実施した「古代オリンピックから日本へ 想いをつなぐトーチ展」では、1936年のベルリン大会から現在までに実際に聖火リレーで使われたトーチを一堂に展示した。こちらは12日間で2,245名が来場した。

1964年の原曲を現代風にアレンジした東京五輪音頭2020については、踊り方を教える講習会を6月から7月にかけて区内5ヶ所で実施した。来年度も実施したいと考えている。

今後の予定としては、来年の3月3日であるが、500日前イベントを西新宿小学校で開催を予定している。実施内容については、現在検討中である。

東京2020大会のボランティアについては2種類のボランティアがある。一つは東京都が募集する都市ボランティア、もう一つは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が募集する大会ボランティアである。大会ボランティアは活動場所が競技会場の中や選手村となっており、8万人を募集している。一方、都市ボランティアは、競技会場の周辺で観客の誘導をしたり、ターミナル駅で観光客の案内をしたりする業務内容で、3万人を募集している。都市ボランティアについては、各区で推薦枠があり、新宿区で150名を現在募集中である。

ボランティアを知っていただくため、平昌五輪のボランティア経験者や東京観光ボランティアに実際に従事している方、リオ五輪銅メダリストの三井梨紗子さんのお話を聞くことができる「ボランティアフォーラム」の開催を今週の土曜日に予定している。オリンピック以降も地域でボランティア活動に参加される人が増えれば理想的である。



## ウ 各報告を受けての自由意見

### ・区レクリエーション協会

中学校の部活動の現状について3点教えていただきたい。

1点目は部活動のあり方について。全国的にも部活動のあり方について問題になっているが、新宿区の現状を教えていただきたい。

2点目は、野球部やバスケットボール部といった人気がある部活でも、一つの学校では成り立たない運動部があると聞いている。その場合、中学校間の連携で部活動をやっているのかどうか。

3点目は、部活動の指導者の確保の問題。地域の指導者やボランティアリーダーを部活動指導者として位置付ける動きもあるが、新宿区の現状を教えていただきたい。

### ・教育調整課

新宿区の部活動に関して、今年6月に部活動のガイドラインを策定した。週2日の休養日を設ける、土日連続での活動は避け土日どちらかは休む、といった内容で、学校に取り組んでもらうよう周知をした。

一つの学校で成り立たない運動部の学校間での連携のケースについては把握していないため、お答えができない。

今年策定したガイドラインに関連して、部活動の環境を改善するため、部活動指導員を新たに配置する。教員が顧問をする場合の、部と顧問のミスマッチを防ぐ方法なども現在検討している。スクールスタッフの皆様を支えられて部活動が成立しているが、さらに部活動指導員を配置することで部活動の支援を強化していくことを検討している。

### ・中学校 PTA 協議会

中学校の部活動だが、ある学校では、部活動に外部指導員を入れ、顧問2人の3人態勢でやっていたが、結果として外部指導員は辞めてしまった。また、ある中学校に関しては、サッカー部が今年無くなった。部員は2名いるが、2名では部活にならないという学校の判断により、現在は休部となっている。外部指導員の配置は大変ありがたいことであるが、もう少し実態の調査をしていただきたい。

### ・青少年育成委員会

中学校の部活動支援について、教員がいくつも掛け持ちしている現状があり、どうしても受け持つことができない場合にボランティアの力をお借りしているようだが、部活動という形ではなくクラブチームとして登録をしているところもある。新宿区サッカー協会の中には、少年、ジュニアユース、社会人、シニア等いろんなカテゴリーがある。人数が2人だけだからできないと思うのではなく、クラブチームがあるので練習は可能だし、ジュニアユースの大会もあるので、試合もできる。人数が揃わなければ他のクラブの人が一緒にやってくれるという体制もある。

### ・区レクリエーション協会

障害者の学校卒業後のスポーツ環境の確保は、おっしゃる通り重要な課題である。その課題

に対して、どういう支援があれば解決の可能性があるかご意見をお聞きしたい。

- ・藤原委員

まず一つは指導者の確保である。子どもたちを成長させ、競技能力も向上させるという目的の場合、ある程度定着した指導者が必要である。現状では、学校の教員が休暇を使い、ボランティアとして指導していただいている。実務で多忙な中で時間を割いて参加してくださっている教員に支えられているようなものなので、なかなか長続きはしないのではないだろうか。

次に、場所の確保だが、数ヶ月前から抽選に申し込み、体育館を予約するという現在の方法では、使用できるかどうか不確定な状態で練習に備えることになる。決まった曜日・時間に練習ができるようになればいいと感じている。

そして、最後に運営サポートについてであるが、校外キャンプやクラブ運営を障害の重い子どもたちが自分たちでやっているのだが、書類一枚の作成も大変である。会議の資料や会議場所の確保等を移動支援ヘルパーさんにボランティアでサポートしていただいているが、実質的な運営のサポートを行政から支援していただきたい。

- ・区レクリエーション協会

このスポーツ環境会議は、毎年とてもいい情報交換の場となっているが、情報交換の協議体から脱し、各種目を具体的に展開していくような実施体にできないだろうか。

- ・生涯学習スポーツ課

スポーツ環境整備方針の中で、区民の主体的な活動をどのように支援していけるのか、というテーマもある。本日お集まりの委員の皆様が既に実施主体であり、この会議体で新たに活動することは今のところは考えていない。また、新しい提案を頂戴できることがこの会議体の素晴らしいところであると考えているので、今後の施策に反映していきたいと考えている。

- ・区レクリエーション協会

三つの体操のうち、一番歴史がある「いきいき体操」については、各地域でかなり普及しており、指導者も多く、好ましく思う。是非今後も継続していただきたい。

「ごっくん体操」については、97名の指導者がいるとのことだが、どのような人が指導者なのか。また、「100歳トレーニング」について、臨床実験等による効果はあったか。

- ・健康政策課

「ごっくん体操」の指導者は、一般の方が多い。今後は、歯科医師や歯科衛生士といった、いわばプロの方にも講習会を開いていきたい。

「100歳トレーニング」については、臨床による効果測定をしている。そもそもの原型は、筋力体操を続けていたら、杖をついていたお年寄りが小走りできるようになったという高知県の事例がきっかけで広まっていった。新宿区なりのやり方と、東京都の研究機関と連携した上で負荷の少ない本人にあったやり方等があり、指導員の元に考えた上で開発を進めている。

## (5) 各団体の連携について

- ・金子座長

「ごっくん体操」と「いきいき体操」は主管課が違うが連携は可能か。

- ・地域包括ケア推進課

福祉部と健康部で連携しながら取り組んでいく。これまでの開発に向けての検討の中でもしっかりと連携してきた。検証等についても「いきいき体操ができる会」の皆様にご参加いただき、効果の実感を重ねながら、検討してきたものである。

今後の普及についても、「100歳トレーニング」が完成したらいきいき体操サポーターの皆様や、「いきいき体操」を実際にされている方にもしっかりと紹介をし、取り組んでいただけるよう周知をしていくことが必要と考える。また、福祉部の高齢者のための施設や事業に対して、健康部や地域の団体と一体になりながら、周知啓発していきたいと思っている。

- ・金子座長

「いきいき体操」、「ごっくん体操」、「100歳トレーニング」は3つを合わせてやらないと万全ではない気がする。是非3つを合わせて普及していく方法でやっていただきたい。

それから、中学校PTA協議会にお尋ねしたいが、親子で参加できるようなスポーツの取り組みは中学校では可能か。

- ・中学校PTA協議会

個人的にはやりたいと思っている。コミスポ等でやっていたボッチャを、中学生でチームを作りやりたかったが、教育時間を割いてしまうので、学校が休みの時に有志を募ってやるという形になる。その場合、中学生の参加は極端に少なくなる。コミュニティスポーツ大会にも中学生の参加は少ない。子ども家庭部で行っている「おまわりさんと走ろう」という企画も、中学生参加は1名であった。その理由は、中学生には期末試験があり、「おまわりさんと走ろう」の実施日は期末試験3日前だった。企画するのであればそういうことも考慮した上で企画してほしい。

- ・金子座長

落合地区では先日、小学生と中学生の金管バンドによるジョイントコンサートがあった。小学校までは金管バンドに入っていたが中学校では入っていない子どもたちが、保護者のサポートのもと自主的に作ってるグループがあった。おそらく、面白いと思ったら中学生でも自主的にやるのだと思う。関わったら楽しいと思えば手伝ってくれるのではないかな。何かいい方法を今後も模索していきたい。

## (6) その他 意見交換

- ・藤原委員

障害が重い方はなかなかイベントに参加することが難しいのだが、学校でいう出前授業のような方法で、オリパラの出前イベントのようなものできないだろうか。それほど大がかりでなくてよい。例えば、旗を持って、法被を着て、といったようなオリンピック感が施設内に出ればよい。オリンピックに対する興味が少しでも出ると思う。

実感として、特に障害の重い施設では、スポーツの話題がまず出ない。そういった話題に興味を持って人がほとんどいないのである。私が通っている施設のみならず、全体的にそのような風潮が福祉の世界にはある。出前イベントのような企画があったら、こちらからもサポートもさせていただき、色々な連携が図れるかと思う。施設の職員ではない第三者の方が来てお話ししていただくという機会があると、施設利用者の興味も変わってくると思う。

- ・金子座長

東京都が特別支援学校を学校開放しているが、新宿区ではどうか。

- ・藤原委員

新宿区では新宿養護学校が学校開放をしている。私の団体でも、放課後子どもひろばで活用させてもらっている。それ以外の活動の場合、バドミントン等の練習は抽選制となっている。

#### 4 行政からの連絡について

第12回スポーツ環境会議は実施日程及び内容が未定のため、決定次第お知らせする。